



八ヶ岳中央農業実践大学校に来たときは生後3カ月くらいの子ブタだったが、それから3カ月が経ちすっかり大人のブタに成長した＝9月25日、八ヶ岳中央農業実践大学校

7月に、子ブタ32頭の放牧を開始しました。ブタは横になつて居る時がとて長く18時間にもなり、大半は眠ったり、まごころだりしています。放牧では、3時間食事をし、2時間地面を掘り起こしたりします。植物もよく食べます。盲腸がとても大きく、ここに微生物を住まわせて、植物を消化してもらっています。あとの1時間は泥浴びをしたり、仲間と遊んだりしています。ブタはほとんど汗腺がないので、体温を上げないためにはイヌのように口呼吸を速めたり、泥浴びによって体

を冷やすことが必要となります。遊びでは、一緒に走り回ったり、物を引っ張り合ったり、甘噛みしあったりします。多くの農家ではコンクリート製のスノコ床の部屋で飼いますが、ここでは餌が目の前にあるので食事時間は半分になり、地面掘りも泥浴びもできないので、横になつている時間は2時間ほど多くなります。そして全く遊ばなくなりますが、お肉を安く生産するために単調な生活を強いています。
(八ヶ岳中央農業実践大学校畜産部長、佐藤衆介) 〓 随時掲載

2時間も地面を掘り起こす

日中の2時間も費やす地面掘り行動。鼻先がとても敏感で、掘り起こしながら、草の根や昆虫・ミミズ等の小動物を食べる
〓 7月20日、八ヶ岳中央農業実践大学校

八ヶ岳山麓 ブタ編 動物ふれあい日記

1 放牧を12年ぶりに再開しました



汗腺がほとんどないので、体温を下げるために泥浴びをよく行う。水浴びよりも水分蒸発が遅いため効果的＝7月22日、八ヶ岳中央農業実践大学校



気温が30度近くにも上がった日中にブタにシャワーをかける職員の五味和喜さん＝8月5日、八ヶ岳中央農業実践大学校

佐藤衆介(さとう・しゅうすけ)

1978年に東北大学大学院農学研究科博士課程修了。80年から宮崎大学助手、88年から同大助教授を務める。94年に東北大学助教授に着任。2002年からは農業・生物系特定産業技術研究機構畜産草地研究所放牧管理部長。05年から東北大学大学院教授を務める。同大名誉教授。15年からは帝京科学大学教授。19年に八ヶ岳中央農業実践大学校(原村)の畜産部長となり、現在に至る。主な著書は「アニマルウェルフェア」(東京大学出版会、2005)など。



放牧地では地面掘り行動、駆け回りの遊び行動、休息睡眠を一齐に行う〓7月22日、八ヶ岳中央農業実践大学校